

「テクノロジーを通して聴覚障害者について学ぼう！」学習指導略案

1 対象

聴覚障害学生、聴覚障害について学ぶ学生、特別支援教育教職課程履修生
(※ろう学校教職員研修向けにアレンジ可)

2 指導の形態

通常教室 (90 分)

3 指導の目的

- 1) 聴覚障害者にとってのテクノロジーとは何かを知る。
- 2) テクノロジーの発展で聴覚障害者に影響を受けていることを理解する。
- 3) グループで話し合い、模造紙を仕上げる。

4 指導にあたって

- ・テクノロジー発明のきっかけについて、資料を用意できると良い。
- ・グループ討論に進む際には、一人一人がまずワークシートに自分の考えを記入してから、グループで共有してまとめるという流れをお勧めする。

5 本時の展開

過程	学習活動	指導・支援内容 (留意事項及び配慮事項)	評価の観点
導入 20 分	・持っている知識を出し合う ・通信について理解する	本時の学習内容を説明する 発問 「聴覚障害者にとってのテクノロジーにはどんなものがある？」 ・聴覚障害者にとって便利なテクノロジーには何があるか考えさせる (例) ファックス、タブレットなどが挙がると思われる ・代表するものとして UD トーク (音声認識) について触れさせる (S4)	積極的に参加できているか【観察】
展開 20 分	映像視聴 ・ろう者が利用している通信手段について理解する	※映像視聴 「通信の歴史」[0:00~6:00] ※約 6 分半 ・映像の内容についてまとめる (S5、ワークシート記入)	映像をしっかりと視聴し、ワークシートに記入できているか【観察】
まとめ 50 分	議論 まとめ発表	議論 (模造紙を配布) テーマ『3 つの通信手段の長短を考えてみよう』(5 人／組) それぞれのグループから代表を決め、発表してもらう ワークシートをまとめる [指導者のコメント] 聴覚障害者のために考案された通信手段の発達は、聞こえる人にとっても便利なものとして広まっている。つまり、聴覚障害者自身の体験が実はテクノロジー発展において貴重な研究材料であることを最後まとめる。	議論を通して、聴覚障害者における通信手段の理解を深めているか【観察】 ワークシートに考察をまとめられているか【考察】

6 参考・引用文献または Web サイト

- ・ろう者学教育コンテンツ開発プロジェクト，<https://www.deafstudies.jp/info/vidarc/>，ろう者学教育コンテンツ Web サイト，井上正之先生「通信の歴史」

作成：金子 真美（2014 年）

編集：ろう者学教育コンテンツ開発取組担当